

# 令和8年度当初予算審査抽出事業 調査報告書

(都市経済分科会 No.1)

(所属課、事業コード) 事業名	(商工観光課, 2177) 商工業振興事務経費 ※P40	
予算額	令和6年度決算額	28,744千円
	令和7年度決算見込額	27,322千円
	令和8年度当初予算額(案)	29,162千円
<p><b>【事業抽出理由】</b>                  (事業を選定した理由)                  鹿嶋市チャレンジショップ支援事業補助金は、令和2年度から令和7年度までに15件の活用があり、うち14件が新規創業につながっている。                  一方で、各種支援策が中心市街地の活性化や商工業振興にどのような効果を及ぼしているのか、また商工会補助金や鹿嶋まつり補助金の妥当性についても確認する必要があることから、本事業を抽出した。</p> <p><b>【事業の妥当性】</b>                  (事業の必要性、費用対効果、財源の安定性等)                  本事業は、商工業の振興や創業支援を通じて地域経済の活性化を図るものであり、必要性は高いと理解する。チャレンジショップ支援事業については、一定の創業実績があり、令和8年度から伴走型創業支援へ見直す方針も示されていることから、継続的な支援として評価できる。                  一方で、支援の公平性や、お試しチャレンジショップの運営内容と費用の妥当性、商工会補助金の事業効果については、引き続き検証が必要である。                  また、全額一般財源による事業であることから、成果の可視化に努めるべきである。</p> <p><b>【調査結果】</b>                  (総括)                  チャレンジショップ支援事業や創業スクールなどにより、一定の創業実績や新たな事業展開が生まれていることは評価できる。特に、令和8年度から伴走型創業支援へリニューアルし、お試しチャレンジショップを本格化させることは、担い手づくりと地域商業の活性化に向けた取組として期待する。                  一方で、お試しチャレンジショップに空白期間を生じさせない工夫や情報発信の強化により、単なる出店支援にとどまらず、エリア全体の魅力向上とにぎわい創出につながる必要がある。                  また、チャレンジショップ支援については、特定区域のみが優遇されているとの印象を与えないよう配慮するとともに、市内全体の商工業振興の観点から制度設計を継続して検討されたい。                  さらに、商工会補助金及び鹿嶋まつり補助金についても、事業効果を的確に把握し、より実効性の高い執行に努めていただきたい。</p>		